

〈M〉 **デジタルアーカイブ論** (春学期 2単位)

研谷 紀夫

〈C〉 Digital Archive

■授業概要

本講義では、文化資源をデジタル化したコンテンツ、Digital Cultural Heritage (日本でデジタルアーカイブと総称されるコンテンツ) の歴史やその仕組み、文化の普及における役割などについて学びます。Digital Cultural Heritage の具体的な例としては、美術品、書籍、文書などの文化資源をデジタル化して、インターネットで公開しているサイトや、博物館などにある情報端末などをあげることができます。

本講義ではこれら Digital Cultural Heritage の歴史と、その概要について学び、特にこれまで知識や情報を蓄積して公開してきた、図書館、博物館、文書館、大学などの機関や組織が、デジタルメディアやインターネットの普及についてどのように対応し、Digital Cultural Heritage などの文化情報基盤を形成してきたかを学びます。そして、既存の文化資源保存組織だけではなく、個人やNPO、地域、企業やソーシャルメディア上の新しい共同体が、多様な知識情報や文化資源を集積し、公開しているかについても考察します。

さらに、これらの Digital Cultural Heritage におけるメタデータ (目録情報) 作成などの資料情報基盤や、それらが運営されている社会基盤、さらに、どのような ICT 技術を用いて設計・構築していくべきかなど、実際の運営や仕組みについても学ぶ講義です。

■到達目標

以下のことについて学習することを目標とします。

- (1) 文化資源保存継承の歴史を理解し、M(ミュージアム) L(図書館) A(文書館) の歴史をとらえる。
- (2) 文化資源のデジタル化の歴史を理解する。
- (3) 文化資源のデジタル化の動向の中での MALUI (ミュージアム、アーカイブ、ライブラリー、大学、企業・機関) 連携について理解する。
- (4) デジタル化された文化資源を用いた人文学研究について理解する。
- (5) 文化資源のデジタル化における課題について理解する。

■授業計画

- 第01講：Digital Cultural Heritage とは何か？ - 知の集積の歴史と Digital Cultural Heritage
- 第02講：図書館・書籍の電子化と Digital Cultural Heritage
- 第03講：博物館の発達と Digital Cultural Heritage
- 第04講：文書館の発達と Digital Cultural Heri-

tage

- 第05講：大学の歴史と知識基盤としての Digital Cultural Heritage
- 第06講：企業と Digital Cultural Heritage 1
- 第07講：企業と Digital Cultural Heritage 2
- 第08講：MALUI (ミュージアム、アーカイブ、ライブラリー、大学、各種機関・企業) 連携と Digital Cultural Heritage
- 第09講：写真資料の Digital Cultural Heritage
- 第10講：映像資料の Digital Cultural Heritage
- 第11講：音楽資料の Digital Cultural Heritage
- 第12講：災害記録と Digital Cultural Heritage
- 第13講：タブレットにみる Digital Cultural Heritage
- 第14講：スポーツの Digital Cultural Heritage
- 第15講：Digital Cultural Heritage を支える資料・社会・技術基盤

■授業時間外学習

インフォメーションシステムによる課題。

参考書および提示された参考サイトなどの調査とまとめ。

■成績評価の方法

定期試験 (筆記試験) の成績と平常成績で総合評価する。

定期試験 (80%) + インフォメーションシステムの課題 (20%)

■成績評価の基準

- (1) 歴史的な経緯や流れを理解しているか。
- (2) 講義の中で提示した、用語や概念を理解しているか。

目安となる総合点 秀：100-90点 優：89-80点、良：79-70点、可：69-60点、不合格：59点以下

■教科書

教科書は講義の中で提示します。

■参考書

『文化資源デジタル化のためのハンドブック』(東京大学大学院情報学環+凸版印刷株式会社 共同研究プロジェクト) 研谷紀夫、北岡タマ子、高橋英一 <http://www.center.iii.u-tokyo.ac.jp/handbook> よりダウンロードできます。

■備考

連絡方法は教員紹介に掲載されているメールアドレスなどを参照してください。

講義の内容は、受講者の関心や理解度にあわせて変更することがあります。